

《担当者名》○西郷 達雄 (t-saigo@hoku-iryo-u.ac.jp) 池田 宏(特別講師)

【概要】

本授業はボランティアの理論と実践活動を通して、多職種連携や地域連携の理念を理解するとともに、自己理解を深め、地域に貢献する意志を有した人材の育成に寄与することを目的とし、講義ならびにボランティア体験の演習を行うものである。

【学修目標】

ボランティアの歴史と理論に関する基礎知識を得るとともに、医療や福祉、環境やまちづくりなど地域の諸課題を広く概観し、また実際に多職種連携を伴うボランティア活動に必要な地域貢献活動の知識を得ることによって、自己理解の深化と社会的な問題の解決への意欲を高めることを学習の目標とする。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ボランティア活動とは何か	本講義のガイダンスおよびボランティア活動の理論と歴史を学ぶ。また、ボランティア活動における4つの柱を学び、「公共」「自発性」「無償性」「先駆性」についての理解を図る。	西郷 達雄
2	ボランティア活動の心理的側面の理解	ボランティア活動を通じて、人間の心と行動の理解を図る。また、ボランティアを受ける側の心理的狀態について考え、必要な知識を得る。	西郷 達雄
3	様々なボランティア活動とその理解	国内外で実践されているさまざまなボランティア活動についてを学び、多職種連携および地域の諸課題についての理解を深める。	西郷 達雄
4	遠隔地域における教育	遠隔地域における教育現場の現状を学び、ボランティアの可能性について検討できるようになること目的とする。	池田 宏
5	ボランティア実習の事前学習	ボランティア実習に先立って必要な知識、技術、および活動内容について学習する。	西郷 達雄
6 ┆ 13	ボランティア実習	北海道青少年体験活動支援施設にて、ボランティア実習を行う。	西郷 達雄 関連職員
14	ボランティア実習の事後学習	ボランティア実習の振り返りを行い、その成果と今後の課題に基づく報告書を作成する。また実習発表会の準備を行う。	西郷 達雄
15	ボランティア実習報告会	実習で学んだことをグループで発表し、学びを深める。	西郷 達雄

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業レポート（60％）と 事前事後学習への取り組み姿勢（発表会・報告会内容、実習報告書）を含めた総合評価（40％）

【教科書】

教科書は指定しない。必要な資料を配付する。

【参考書】

学生のためのボランティア論（大阪ボランティア協会出版部）（2016）第5刷

原田 隆司 著 ポスト・ボランティア論 日常のはざまの人間関係（ミネルヴァ書房）（2010年）

大阪ボランティア協会（監）巡 静一・早瀬 昇（編）基礎から学ぶボランティアの理論と実際（1997）

【備考】

ボランティア実習における交通費および施設使用料は実費負担となる。

【学修の準備】

配付資料に基づいた予習、復習を行うこと。

< 授業時間外学修 >

予習（60～90分）：配付資料に基づいた予習、復習を行うこと。

復習（30分～60分）：学習の振り返りをし、短くまとめる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得する、という臨床心理学科のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

科目主担当者（西郷、冨家）は、公認心理師としての実務経験を有している。

【実務経験を活かした教育内容】

ボランティア活動に必要な臨牀的かつ実践的な知識を修得できるような教育を展開する。